

選定に必要な資料

(種目名 書写)

No. 1

選定に必要な資料の観点

記号	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫	(6) その他	総括
A 東京書籍	<p>・1年が39ページ, 2年が33ページ, 3年が17ページ, 資料が29ページで, 総ページ数が127ページである。</p> <p>・1年は毛筆教材が5点, 硬筆教材が3点, 硬毛共通教材が1点, 2年は毛筆教材が4点, 硬筆教材が3点, 硬毛共通教材が2点, 3年は硬筆教材が1点, 硬毛共通教材が1点, 思考・判断のための教材が3点である。(p82, 92)</p>	<p>・文字の学習, 配列の学習, 生活場面における学習の順に単元が構成されている。</p> <p>・「二」「十」「口」「人」という行書の動きのパターンから行書学習に入り, 他の文字へ応用することで, 段階的に行書を身につけられるような構成となっており, 行書学習の導入において効果的な指導ができる。(p29)</p> <p>・硬筆教材では古典を中心に長い文章も取り上げ, 書写力の向上が図られている点が優れている。(p46, 63, 70, 80, 98)</p>	<p>・改善が必要な書字例を示し, 改善点を進んで考えられるように工夫されている。(p8, 25)</p> <p>・学習を深める内容や生活に密着した情報や豆知識が織り込まれた「しょしゃのたね」や「しょしゃのつぼ」というコラムが設けられ, 興味を引くように工夫されている。(p21, 39)</p>	<p>・「生活に広げよう」のページや「生活を豊かにする文字」の単元では学習過程を示し, 見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。(p26, 92)</p> <p>・職場訪問や防災訓練など, 地域社会と関わる活動に関する内容の教材を取り入れ, 地域社会への関心を高めるきっかけとなるよう配慮されている点で優れている。(p72-78)</p>	<p>・「書くときのポイント」をページ端に帯で示し, 書く時に気をつける点を確認しながら学習できるようにしており, 自学自習を行うのに適した構成になっている。(p10)</p> <p>・日本及び中国の古典を取り上げ, 芸術書道の学習へのつながりに配慮されている。(p106, 107)</p> <p>・資料に「書写テストに挑戦」のページを設けることで書写学習の定着を図ることができるよう工夫されている。(p102-103)</p>	<p>・資料「常用漢字表」は楷書体と行書体を並べて示し, 本編の書写学習の確認や活用ができるよう工夫されている。(p108-122)</p> <p>・資料中に「人名用漢字表」を載せ, 生徒が自分の名前を書くための手本, 手がかりとして活用できるようにしている。(p123-128)</p>	<p>・1, 2年で基礎的な知識・理解に重点を置き, 3年でそれらを活用して, 目的に応じて文字を書く技能を育てるよう工夫されている。(p8, 9, 86)</p> <p>・判型がA B判と幅が広く, 見開きのページを十分に生かしており, 毛筆手本は半紙程度の大きなものが掲載されている。その他, 写真や図版, イラストによる資料も豊富であり, 日常生活の書き文字を想起させる効果的な指導ができる。(p10-11, 38-39)</p>
E 学校図書	<p>・1年が44ページ, 2年が32ページ, 3年が30ページ, 資料が11ページで, 総ページ数が120ページである。</p> <p>・1年は毛筆教材が6点, 硬筆教材が4点, 2年は毛筆教材が6点, 硬筆教材が4点, 3年は毛筆教材が3点, 硬毛共通教材が1点である。</p>	<p>・3年間を通して7章で構成され, それぞれにねらいを表したタイトルが付けられ, 見通しを持って学習できるように工夫されている。(p1)</p> <p>・1・2年では毛筆教材の後に硬筆教材を配置し, 毛筆学習と硬筆学習の関連を理解できる構成になっている。</p>	<p>・「書写の窓」では, 書写に関する疑問や学習の留意点についてまとめている。筆ができるまでの流れや篆刻などを取り上げ, 興味・関心を高める工夫が見られる。(p3, 109, 110)</p> <p>・「書写を生活に生かそう」ではいろいろな筆記具を活用した作品をカラー写真で紹介し, 具体的なイメージを持ちやすい工夫がされている。(p87)</p>	<p>・「書写を生活に生かそう」では学校行事におけるレポートや礼状, 作文, のし袋の書き方をわかりやすく取り上げている。(p88-92)</p>	<p>・発展学習として「篆刻を体験しよう」が設けられている。(p100)</p> <p>・1・2年とも学年末に「確かめよう」で, 1年間の学びで気づいたことを意識させ, 活用への意欲づけとなるよう配慮している。(p36-39, 72)</p>	<p>・各学年「書き初めをしよう」では, 手本に上質な紙を使用しており, 書写に対する真摯な姿勢を養える。</p> <p>・各学年「硬筆で書いてみよう」の手本の文字に配慮がほしい。(p24, p70)</p>	<p>・書き込み部分が多く, 実際に練習したり, 作品を作ったりする活動が中心となっている。(p54, 70)</p>

選定に必要な資料

(種目名 書写)

No.2

選定に必要な資料の観点

記号	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫	(6) その他	総括
F 三省堂	<p>・1年が35ページ, 2年が25ページ, 3年が7ページ, 資料が39ページで, 総ページ数が116ページである。</p> <p>・1年は毛筆教材が6点, 硬筆教材が3点, 硬毛共通教材が2点, 2年は毛筆教材が5点, 硬筆教材が3点, 思考・判断のための教材が1点, 3年は硬毛共通教材が1点, 思考・判断のための教材が1点である。</p>	<p>・全学年で学習の流れの中で, 「生活に生かそう」という単元があり, 学習で身につけたことを活用し, 定着させる工夫がなされている。</p>	<p>・各単元「考えよう・話し合おう」という項目があり, 生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>・行書の教材では早く書くことを意識させるため, 制限時間を設けて書いてみる活動が設定されている。(p30)</p> <p>・「書写の探検隊」というキャラクターが登場し, 学習のヒントを与えながら, 生徒が見通しをもって学習できる配慮がなされている。</p>	<p>・3年「効果的に書こう」では, 身の回りの文字に関心を持たせ, 効果的に書く方法を考えさせることで, 目的に応じて書くことの大切さを意識させている。(p70-73)</p> <p>・巻末の資料編では「日常の書式」を①～④でまとめ, 便せんや封筒, のし袋, 願書の書き方, ノートのまとめ方をわかりやすくまとめている。(p78-84)</p>	<p>・各単元の終わりに, 「学習のまとめ」が設定されており, 直接書き込めるようになっており, 予習や復習に活用できる工夫されている。(p14-15)</p> <p>・「書の名手たち」というページでは歴史に残る書家を紹介し, 芸術書道への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p68)</p>	<p>・裏表紙では「自分の文字」をテーマにし, いろいろな文字に目を向けさせ, 自分らしい文字を効果的に指導するために毛筆教材の筆圧について配慮がほしい。</p>	<p>・全般に課題解決的な編集となっており, 生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>・毛筆, 硬筆ともに1教材が見開き2ページに収められ, 学習の見通しがもてるように配慮されている。</p>
G 教育出版	<p>・1年が56ページ, 2年が36ページ, 3年が13ページ, 資料が27ページで, 総ページ数が140ページである。</p> <p>・1年は毛筆教材が6点, 硬筆教材が5点, 硬毛共通教材が1点, 2年は毛筆教材が6点, 硬筆教材が3点, 思考・判断のための教材が2点, 3年は毛筆教材が2点, 硬毛共通教材が2点, 思考・判断のための教材が1点である。</p>	<p>・それぞれの教材が, 「目標」「ためし書き」「考えよう」「まとめ書き」, 「振り返ろう」の流れで構成されている。毛筆教材の中に硬筆の練習を取り入れ, 日常生活に繋がるように構成されている。</p>	<p>・「文字は残る」のページでは, 芥川龍之介の自筆原稿や宮沢賢治の手帳に記された草稿を紹介するなど, 書字についての興味・関心を高める工夫が見られる。(p34-35)</p> <p>・「文字で心を伝えよう2」ではクラス目標, 体育祭でのクラス旗, うちわ等を紹介し, 学校生活に学習を生かす例を取り上げ, 興味をもてるよう工夫されている。(p94-95)</p>	<p>・「文字で心を伝えよう1」では心の中にあるさまざまな思いを文字にすることで, 思いを目に見えるものにし, コミュニケーション能力を高めるための書写活動について工夫が見られる。(p28-29)</p>	<p>・補充教材集を配置しており, 生徒が主体的に学習を深めることができるように, 工夫されている。(p63-64, 120-121)</p> <p>・日常生活の中で行書を活用する場面について配慮がほしい。(p110)</p>	<p>・「目的に合わせて書こう」では, 「書く目的」「誰に向けて」「表現効果を考える」「どんな力を身につけるか」が一覧になっており, 見やすい配置となっている。(p1-2)</p> <p>・書くときの姿勢と用具の持ち方が3ページに渡り, 記されている。(p3-5)</p>	<p>・学習を日常生活に生かすことをねらいとし, それを順序立てて学べるように工夫されている。</p> <p>・毛筆教材が豊富であり, 基礎・基本の学習の充実が図られている。</p>

選定に必要な資料

(種目名 書写)

No.3

選定に必要な資料の観点

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫	(6) その他	
J 光村図書出版	<p>・学習編は1年が24ページ, 2年が16ページ, 3年が10ページ, 資料編は59ページで, 総ページ数が119ページである。</p> <p>・1年は毛筆教材が6点, 硬筆教材が3点, 2年は毛筆教材が4点, 硬筆教材が2点, 思考・判断のための教材が1点, 3年は硬毛共通教材が1点, 思考・判断のための教材が2点である。</p>	<p>・練習や作品づくりの教材数を少なくすることで, 実際に学校生活や日常生活に生かす学習を重視している。</p> <p>・学習の流れが見開き2ページに, 「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」の三段階で示され, 見通しをもって学習ができるように配慮されている。(p10-11)</p> <p>・毛筆手本は半紙大程度の大きなものも掲載してほしい。</p>	<p>・導入段階に「書き込み」や「なぞろう」, 「○をつけよう」などの活動を盛り込み, 生徒が視点をもって学習できるような工夫がされている。(p10, 28)</p> <p>・「活用のヒント」では, 情報の収集・整理, 発信の例を紹介し, 各教科等への書写学習の活用を提示することで興味・関心を高める工夫がされている。(p68-77)</p>	<p>・「季節のしおり」では, 古謡や唱歌, 短歌, 俳句, 古典, 小説などの語句や文章を書写し, 日本の言語文化を味わう工夫がされている。(p32, 48)</p> <p>・3年の学習単元の初めにイラストレーターに取材した誌面を紹介したり, デザイナーへの取材の文章を掲載したりして, 文字や言語文化だけでなく, キャリア教育の視点が意識されている。(p50-53)</p>	<p>・「先人の文字に学ぶ」では, 異なる筆者の同一文字を比べさせ, 書字には個性が表れることを示し, 芸術書道への興味・関心を高めている。(p58)</p> <p>・資料編に「書写事典」として, 常用漢字の楷書・行書やひらがな・カタカナ, 数字, アルファベット, 部首の手本を掲載し, 自学自習に活用できるような工夫がされている。</p>	<p>・「三年間のまとめ」では, テスト形式で既習事項の確認ができるように工夫されている。(p54-55)</p>	<p>・毛筆, 硬筆ともに1教材が見開き2ページに収められ, 学習の見通しがもてるような配慮がされている。(p10-11)</p> <p>・資料を多くし, 弾力的に扱えるようにすることで, 必要に応じて基礎・基本の学習と関連させ, 他教科等の学習に活用できるようにしている。(p60-118)</p>